本島通信

発行所　〒763-0223
香川県丸亀市本島町泊268
天理教本島大教会
電話 0877-27-3321（代）
本島通信編集室　R.250824-0828-18
奈良県天理市指柳町270-1
本島詰所　〒632-0093
電話 0743-63-1571（呼）
https://www.honjima.com
Email: webmaster@honjima.com

大教会 朝夕おつとめ時間
【9月1日～9月15日】
朝づとめ　午前6時15分
夕づとめ　午後6時45分
【9月16日～9月30日】
朝づとめ　午前6時30分
夕づとめ　午後6時45分

「一言のにをいがけは人の運命を変える」

8月大教会教会長会議

立教188年8月22日

大教会長　**片山幹太**

このたび御本部の「たすけ委員会」より「神殿案内のてびき」が発行されました。B5サイズ三つ折で持ち歩きやすく、そして神殿、教祖殿、祖霊殿について分かりやすく説明されています。

ご注意いただきたいことは、これはおぢばへ案内する相手に渡すものではありません。おぢばを案内する側のてびきとしてお作り下さったものです。つまり神殿案内するにあたり、このてびきを参考にしていただきたい、というものです。

そこで全教会にこの「神殿案内のてびき」を1部ずつ配布させていただきました。まずは教会長ご夫妻がしっかり読み込んで、はじめておぢばがえりされる方に自信を持って正しくその理をお伝えいただきたいと思います。

「てびき」には記載されていませんが、廻廊を歩いているときに説明したい豆知識を二つお話したいと思います。

まず廻廊を歩くと、柱と梁（はり）の接合部の補強木材にハートマークが並んでいます。このハートマークは猪目（いのめ）と言って、日本では古代から寺社建築に使われている文様（もんよう）で、一説には魔除（まよ）けといわれています。

その猪目の補強材を、柱と梁に接合させる方法が、東廻廊と西廻廊で違うのです。

つまり東廻廊には大きな釘が打たれていますが、これは船大工によるものだそうです。一方の西廻廊には釘はなく木組みされているのは、宮大工の施工によるものだそうです。

本来、一般的な施主（せしゅ）なら、同じ工法で揃えたいと考えるのではないでしょうか。

ここは私の推測ですが、それぞれの得意な工法で施工してくださいという思いがあったのではないでしょうか。つまり一人ひとりには備わった徳分や技術があります。あなたにはあるけども私にはない。または、私にはあるけどもあなたにはない。というように、銘々の徳分は違うけれども、人たすけのため、陽気ぐらし世界のため、それぞれの特技を活かし合ってふしんに取りかかってくださいね、という思いがあるように思います。

もう一つ、本部の廻廊は一周約800メートルあるそうです。途中、楼門（ろうもん）のところは上り坂と下り坂があったり、神殿側は高く、教祖殿・祖霊殿のある北側は低く、歩きながら美しいリズムのようです。幼い子どもは決まって、下っているところをすべり台のように楽しんでいます。

これも私の思案ですが、廻廊を歩くのはまるで人生のようではないでしょうか。上り坂、下り坂があります。教祖は一番低い所で私たちの帰りをお待ちくださっている。これが親心だと思います。

皆さまもいろいろお感じになることがあると思いますが、それらもまじえて、ぜひ多くの方をおぢばへお連れし、神殿案内をさせていただきましょう。

9月は「全教会布教推進月間」
すべての教会を布教実動拠点に
【布教部】

次に9月は「全教会布教推進月間」です。

三代真柱様が教祖百年祭の5年前に、諭達第三号をご発布くださいました。その一節を拝読いたします。

一言のにをいがけは、人の運命を変える。それは、をやの声を聞く時、心の向きが変わるからである。

私は、人の運命を変える一言のにをいがけは、理づくりによって発揮されると思っています。そして、その具体的な勤め方は諭達第四号に明確にお示しくださっているのです。

よふぼくは、進んで教会に足を運び、日頃からひのきしんに励み、家庭や職場など身近なところから、にをいがけを心掛けよう。身上、事情で悩む人々には、親身に寄り添い、おつとめで治まりを願い、病む者にはおさづけを取り次ぎ、真にたすかる道があることを伝えよう。親神様は真実の心を受け取って、自由の御守護をお見せ下される。

9月は、一言のにをいがけを、勢いと勇み心で歩ませていただきたいと思います。

ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

本島大教会 神殿講話(要旨) 【立教188年8月22日】

ひのきしんに励み 一手一つの和をきずこう

大教会准役員 横山富明

私たち天理教を信仰する人がよく使う言葉に「ひのきしん」があります。

一般的な辞書には載っていない「ひのきしん」の意味について、天理教三原典や教典から考察したいと思います。

まず、おふでさきには「ひのきしん」という言葉は見られません。みかぐらうたに6ヶ所、おさしづに2ヶ所でてきます。

天理教教典第8章「道すがら」には、詳細に記述されています。その中で、次のように書かれてあります。

ひのきしんは、信仰に燃える喜びの現れで、その姿は、千種万態である。必ずしも、土持だけに限らない。欲を忘れて、信仰のままに、喜び勇んで事に当るならば、それは悉くひのきしんである。

ひのきしんは、一時の行為ではなく、日常の絶えざる喜びの行為である。しかも、その喜びは、自分一人に止るのではなく。他の人々をも感化し、心あるものは、次々と相携えて、その喜びを共にするようになる。

ふうふそろうてひのきしん

これがだいゝちものだねや

(十一下り目 2)

親神は、「ふうふそろうてひのきしん」と教えられる。夫を化し、妻を導いて、夫婦共々に心を揃え、日々ひのきしんに勇むところ、一入そのむつまじさが溢れ出て、一家に春の明るさと和ぎが漂う。これを、「だいゝちものだねや」と仰せられる。

一家の陽気は隣人に及び、多くの人々は、われもわれもと相競うて、ひのきしんにはげみ、世界には、一手一つの陽気が漲ってくる。かくて、親神の望まれる陽気ぐらしの世が現れる。

ひのきしんは一時の行為ではなく、日々の感謝と喜びの行為です。そのひのきしんによって他の人々と喜びを共にし、陽気ぐらしの世界が実現されるのであります。

また、みかぐらうた十一下り目には、

三ッみれバせかいがだんくと
五ツいつくまでもつちもちや
七ツなにかめづらしつちもちや

もつこになうてひのきしん
まだあるならバわしもゆこ

これがきしんとなるならバ

とあります。

おさしづには、

「土持々々と言うたる。日々どんな中にも厭わず、国に一つの事情の中も厭わず、心楽しんで来る。一荷の土どういう事に成るとも、何ぼのこうのうに成るとも分からん。（明治40・3・13）」

とお話しくださっています。

みかぐらうた、おさしづから読み取れることは、人々が世界各地から年齢や性別を問わずおぢばに寄り集い、もっこを担いで陽気に勇んだ姿を、親神様はご覧くださっている。何からでもひのきしんをさせていただきたいと、もっこを担いで土持ちをさせていただく、その喜び勇んで真実を伏せ込まれた心の理は、末代の理として親神様が受け取ってくださるということだと思います。

陽気ぐらし世界実現には、ひのきしんは欠かせないということです。

ひのきしんに心が勇み立つ原動力に「かしもの・かりもの」の教えがあります。

これは、私たちの身体は親神様からの貸し物で、人間から申せば借り物であるというご教理です。

おふでさきに

にんけんハみなく〳〵神のかしものや
なんとをもふてつこているやら
（三号41）

にんけんハみなく〳〵神のかしものや
神のぢうよふこれをしらんか
（三号126）

めへ〳〵のみのうちよりのかりものを
しらずにいてハなにもわからん
（三号137）

とお教えくださっているように、かしもの・かりものの理を心に治め、生かされているということに気づいたとき、喜ばずにはいられなくなります。そして親神様の自由自在のご守護を感じたとき、その喜びと感謝を実行するのがひのきしんです。

みかぐらうたに、

ひとことはなしハひのきしん
にほひばかりをかけておく
（七下り目1）

とあります。

人様に親神様のお話をさせていただくとき、ひのきしんの喜びについてお話させていただきましょう。その喜びは、たとえひと言のあいさつや会話の中からもにじみ出てくるでしょう。そこにお道らしいにをいがかかっていくと思うのです。日々ひのきしんの喜びの積み重ねが、なるほどの人として世界の人びとに映っていくのだと思います。

さて、大教会でひのきしんと言えば、青年さんです。私は大教会で生まれ育ちましたが、私が子どもの頃は大教会に大勢の青年さんがいらっしゃいました。

私が34歳のとき、大教会青年として帰らせていただいたときも、10名以上の青年さんがいました。

ところが次第に青年さんは自教会にお帰りになり、大教会創立120周年記念祭の1年前には、0人になりました。正直申し上げてこのとき大教会に居た私は、記念祭に向けての準備をどうしよう、どうなるんだろうかと不安になりました。

そのとき、青年会本島分会の当時の委員長から、「大教会創立120周年記念祭までの1年間、毎週末、青年会としてひのきしんに大教会へ帰ります」とのお申し出がありました。これが「ウィーケン隊」です。

私は1年間毎週末ひのきしんに帰って来るなんて、無理だろうと思っていました。

最初は私を含め5～6名からのスタートだったと思います。ところが回を重ねるごとに、次第に参加人数も増えていきました。しかも青年会や教会子弟だけでなく、幼い子どもや、大学の後輩や、勤めている会社の社員の親子だったり、いわゆる未信者の方も参加してくださるようになりました。大教会ひのきしんがウィーケン隊を通してにをいがけになってきました。

またこのウィーケン隊を通して、私は同じ本島に所属していても会ったことがなかったり、存在を知っていても話をしたことがない人たちともつながることができました。私はこのウィーケン隊で得たつながりが宝物になっています。

ウィーケン隊は120周年記念祭を終えるといったん終了しましたが、現在はマンスリー隊と称して青年会が毎月1回、月次祭に近い週末、ひのきしんに大教会へ帰ってこられています。

このマンスリー隊にもウィーケン隊のように、いわゆる未信者の方が参加してくれています。そして大教会だけでなく、能登半島被災地ひのきしんや、レッツゴー青年会で地方の教会でのひのきしん、さらには本島鼓笛隊合宿にも参加してくださっ

ていると聞いております。

青年会ひのきしんのほかに、大教会帰参の皆さまには、1月と10月の大祭月、教会長会議後に皆さんで提灯や名称旗などを片づけたり、3月と9月の霊祭月には講堂の畳を上げて大掃除をしたり、今まで青年さんがやっていたことを、皆さんと一緒にひのきしんをさせていただけることが本当にありがたく思っています。

毎月、月次祭の準備も教会長さんや青年会がお手伝いしてくださり、祭典後の片づけも今はおつとめ修練部の先生方が来てくださいます。青年さんがいた時代にはなかった光景です。

少年会本島団鼓笛隊には四つのお誓いがあります。

一つ、みんな一手一つの和をつくろう
一つ、ひのきしんに励もう
一つ、たすけ合っていこう
一つ、素直な心になろう

私はウィーケン隊、マンスリー隊や、大教会帰参の皆さんとのひのきしんをしているときに、あらためてこのお誓いの言葉を思い出し、このお誓いは成人していく自分に向けての言葉だったんだと思っています。

まずは教祖140年祭に向かって、本島大教会につながる皆さんとともにひのきしんに励み、一手一つの和をきずいていけたらと思っております。

ご清聴ありがとうございました。

(文責・本島通信編集室)

訃報

大教会役員夫人
本篠分教会前会長夫人
寺本淑美(てらもとよしみ)姉

本篠分教会前会長夫人は去る8月17日午前10時30分お出直しになりました。享年93歳。

葬儀はみたまうつしを8月19日午後7時30分より、告別式を翌20日午前10時30分より、本島詰所において大教会長斎主のもと執り行われました。

寺本淑美姉略歴

昭和6年9月8日生まれ。昭和30年12月27日、修養科第174期修了。昭和32年2月23日、寺本管一郎と結婚。昭和54年12月19日、教会長資格検定合格。同年12月26日、教人登録。昭和63年4月18日、婦人会本島支部委員。同年11月22日、大教会神殿奉仕人。長年にわたり本島詰所食堂にて帰参者世話取りをつとめられました。

布教部報告(8月分) 数字は本年の提出回数です

にをいがけ名簿提出教会(8月)

樺太	8	本千賀	7	本新田	8
本田中	5	本千治	7	赤峰	8
本倉岡	8	本千恵	6	雅峰	8
本樺	8	本浜陽	1	南峰	8
本室	7	本攝	7	神峰	7
本都	7	攝津	8	豪峰	8
本京	8	攝泉	7	倉峰	7
本東	8	本邦	3	栄峰	3
本草	8	本太	8	大雄峰	6
本護	6	本萩	7	雄福峰	7
本三	8	琴浦	5	栄森峰	7
本恵	8	本備前	8	栄星峰	7
本恵山	5	本府中	7	栄東峰	7
本恵明	8	沖浦	8	霊峰	8
本静濱	8	本亀	5	大隅聖峰	7
本静森	7	本清水	5	大駿峰	8
本日米	7	崇徳	8	別峰	6
本浜	7	与島	6	大英峰	7
本米	8	本髙	8	鶴峰	8
本米臺	3	本宣道	7	都峰	8
本米里	8	本九	8	仙峰	8
本米浜	8	本陽山	8	シータック	1
本千代	8	本肥港	6		

計68教会 676名

おさづけ取次報告教会(8月)

本島	8	本千恵	7	本新田	8
樺太	8	本平濱	7	本九台	4
本田中	5	本埼台	1	赤峰	8
本倉岡	8	本攝	7	雅峰	8
本陸奥	6	攝津	8	神峰	7
本樺	8	本吹田	7	豪峰	7
本室	7	攝泉	8	倉峰	7
本京	8	本邦	6	栄峰	3
本東	8	本太	8	大雄峰	6
本道盛	8	本萩	7	雄福峰	8
本草	8	本岡	6	雄山峰	8
本三	8	琴浦	1	栄星峰	8
本恵	8	本備前	8	栄東峰	5
本恵山	8	本迪	6	霊峰	8
本恵明	8	本府中	7	大隅聖峰	7
本静濱	8	沖浦	8	大松峰	7
本日米	6	本亀	6	大駿峰	8
本浜	8	本清水	6	別峰	6
本米	8	崇徳	8	大英峰	7
本米臺	5	与島	6	鶴峰	8
本米里	8	本勇	6	仙峰	8
本米浜	8	本髙	8	S.P.	3
本千代	8	本九	8	ハリウッド	6
本千賀	8	本陽山	8		
本千治	6	本肥港	7		

計73教会 1,843回

統計(7月1日〜31日)

教会名	初席	中席	おさづけの理	修養科	教人講習	検定講習
本島		2				
御幸濱			2			
本静森				1		
本亀	1					
崇徳			1			
本小倉		1	1			
本陽山	1					
赤峰					1	
南峰		1				
雄福峰		1				
別峰		2				
鶴峰		2				
台檀			1			
マリーナ			1			
タミナル	1					
カリフォルニア	1					
合計	4	9	6	1	0	0

八月月次祭　祭典役割

献饌長　岡崎八十則

伝　供　向所隆文・大上道徳・原口実・後藤正治・奥村龍夫・伊東康成・高垣光治・雲庵春彦・横山正次・髙島栄造・長尾海和・岩橋秀一・香川勝巳・鎌田典夫・宮路和徳・村田輝夫・松下尚一・古井信・松下正二・白垣初生・川村吉夫・溝口晋太郎・肥後信・佐藤祥子・片山昇太・江草克二

雅楽奉仕者　文岡育則・池田恒治・鎌田康典・白垣俊生

（順不同）

祭主	指図方	扈者	賛者
大教会長	岩橋竜造	老木邦光 平井真治郎	片山直明 茶屋原良昭

	座りづとめ	てをどり前半	てをどり後半
地方	片山勲 平井真治郎 向所隆文	吉田晴雄 原口実 後藤正治	髙島栄造 香川勝巳 江草克二
てをどり	大教会長 牧野道昭 西山道教 会長夫人 前会長 片山やすゑ	永山晴明 高垣光治 横山正次 池田さわみ 岩橋元実 伊東晴美	雲庵春彦 岩橋秀一 古井信 高垣洋子 長尾善絵 梅木澄代
笛	井上哲	奥村龍夫	横山富明
ちゃんぽん	岩橋慶三	長濵充憲	山下英久
拍子木	窪田靖明	大上道徳	宮路和徳
太鼓	岡崎八十則	伊東康成	田中丸勝也
すりがね	篠原丕王	吉田知彦	松下正二
小鼓	老木邦光	長尾海和	須﨑晴道
琴	片山孝代	向所暉美子	片山美穂
三味線	長尾澄子	岡崎むつゑ	上田敬子
胡弓	片山榮	雲庵まち子	宮路そのよ
神殿講話	横山富明		

八月月次祭祭文

立教百八十八年八月二十二日

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に天理教本島大教会長片山幹太慎んで申し上げます

親神様には一れつ人間の陽気ぐらしを楽しみにこの世人間をお創め下され長の年月火水風をはじめ十全の御守護をもってお育て下さりひたすら成人の道をお連れ通り下さいます親心の程はまことに有難く勿体ない極みでございます

私共はこの大きな親心に包まれてそれぞれの持ち場立場のつとめに励ませて頂いておりますがその中にも今日の吉き日は当大教会にお許し戴いた月毎の御祭日でございますので只今からおつとめ奉仕者一同澄み切った心で一手一つに勇んで座りづとめてをどりを陽気に勤めて八月の月次祭を執り行わせて頂きます

御前には猛暑の中もいとわず親を慕って帰り集いました教え子達が日頃賜わる厚き御恵みへの感謝の心と喜びの心を一つに合わせて共におうたを唱和しておつとめに勇む状をも御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

又この月は九日から十二日まで「学生生徒修養会高校の部」が暑さ厳しい中にも諸事滞りなく感謝と喜びの心でつとめさせていただく事が出来ましたことを心から御礼申し上げ今後ともにをやの理を戴いて道の将来を担う道の後継者育成に丹精を尽くさせて頂く所存でございます

加えて本年九月も「全教布教推進月間」のお打ち出しを頂いております上からも教会長よふぼく信者一人ひとりが教祖の親心を胸に身近なことからにをいがけおたすけに励み実働するよふぼくを心がけて勇んでかからせて頂きたいと存じます

何卒親神様には私共の心定めをお受け取り下さいましてよろづたすけの上には一段と自由の御守護を賜わり世界中が争いの無い互いに立て合いたすけ合う陽気ぐらしの世の状に一日も早く立て替わりますようお導きお育ての程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

（原文のまま）

入社祭

立教188年8月22日の入社祭はありませんでした。

8月22日（金）
【香川県丸亀市】

天　候	晴時々曇
最低気温	26.3℃
最高気温	34.4℃
平均気圧	1009.4 hPa
平均湿度	74%
平均風速	2.3 m/s
日照時間	7.3時間
降水量	0.0 mm

本島団鼓笛隊 第114回夏季合宿

本島団鼓笛隊(佐藤道子部長)では、第114回夏季合宿を7月26日から31日まで本島詰所で実施。総勢105名が参加しました。(ドリーム隊11名、本隊41名、高校生8名、リーダー45名)

初日の7月26日は、午後から少年会本島団おつとめ総会に参加。その後オリエンテーションを行いました。

27日は、こどもおぢばがえり「朝のおつとめ」に参加後、詰所で開講式。午後から本番に向けて練習を始めました。

29日は前夜祭を詰所講堂でおこない、練習の成果を帰参者の皆さんに披露しました。まず今年の春から夏にかけてのようすをスクリーン上映し、ショーのテーマ、マーチ2曲、RYG、ドリーム隊2曲、全員でレッツゴーブルーを演奏しました。鼓笛隊の規律であるドリルNo1,No2を披露し、続いてイーグル(中学3年生)の紹介、お誓い、隊歌を斉唱し、最後に「ありがとう夏のおぢば」「パレード・ザ・ホンジマ」を演奏し前夜祭を終えました。

30日午前中、鼓笛オンパレードに出場。本隊は「RYG」で金賞受賞。ドリーム隊は「さんぽ」「コーヒーブレイク」で奨励賞を受賞しました。そして午後は、こどもおぢばがえりのピッキーステージとアスレチックBOXに参加。夕方からの鼓笛御供演奏では単独で演奏行進し、東礼拝場前にて大勢の鼓笛隊とともに「ありがとう夏のおぢば」を御供演奏しました。

最終日の31日、本島鼓笛隊第57回総会において挨拶にたった大教会長は、鼓笛隊のお誓いの「たすけあい」をジグソーパズルのピースにたとえ、「出っ張っているところ、へこんでいるところがかみ合えば、簡単には崩れません。揺れても絆で結ばれています。鼓笛隊も、各隊員はそれぞれ足りないところや、補えるところをもっています。それらを皆でたすけあっていくことが鼓笛隊の『お誓い』であり、目標です。合宿が終わってそれぞれの地に帰っても、部活でも学校でもたすけあいを進んで実行してみましょう」と述べられました。

最後にパーティーで楽しいひとときをすごし、来年の再会を約束してそれぞれの帰路につきました。

MOMOの会「女鳴物勉強会」

若い婦人会員や子育て中の母親らによる「MOMOの会」が、鼓笛合宿中の7月30日と31日、本島詰所北棟1階大広間にて「女鳴物勉強会」を実施。21名が参加しました。

今回の勉強会では、次の3つの段階に沿って学びを深めました。

♫聞いて(教理)

婦人会小冊子『教えをもとに』の中から、「おつとめ」と「十全の守護」を順に拝読し、親神様のご守護を日常生活の中で感じ、成人を目指す学びの時間。

♫弾いて(学び)

三味線と胡弓を分解し、和楽器の構造を学んだのち、みずからの手で組み立てました。音緒(ねお)を装着し、糸をかけ、糸巻きで巻き取り、駒を立て、調弦までの一通りを体験。糸をしごいて緩まないように調整するなど、音を出す前の準備も学び、演奏時の姿勢やスマホアプリでの調弦方法にも取り組みました。

♫身につけよう(実践)

美しい音色を目指しながら、実践的な稽古を行いました。

本島大教会の成人目標「おつとめの心得を身につけ、お稽古に励む」を実際に体験し、充実した時間となりました。

和太鼓ほんじま

和太鼓ほんじまは、こどもおぢばがえりのピッキーステージ（南右第二棟陽気ホール、1日3公演）にて、セミージャ親里のサポートとして8月2日と3日の2日間6公演に出演しました。出演者5名（伊東賢太郎、内橋和博、鎌田康典、井上周平、香川靖幸）

青年会マンスリー隊

青年会本島分会（伊東賢太郎委員長）では、8月9日から11日にかけて「ファミリーマンスリー隊」を実施。24名（青年会員10名、青年会OB2名、婦人会員8名、少年会員4名）が参加しました。

内容は資材倉庫前道路の支障枝剪定、バス洗車、客殿清掃などをおこない、さらに海水浴で家族ぐるみの親睦を深めました。

次回は9月20日、おもに祭典準備ひのきしんをおこないます。

本島学生会サマーキャンプ

本島学生会（片山昇太委員長）では、8月18日から20日の日程で、本島学生会サマーキャンプを実施。大教会信者会館を宿舎に、学生17名、スタッフ5名が参加しました。

18日夕刻大教会に集合し、ゲームとカレー作り。19日は旧長尾宅草集め、風呂掃除、講堂掃除、バーベキュー準備を行い、午後から屋釜海水浴場で海浜行事。与島分教会の八十丸にて瀬戸大橋を遊覧し、夜は海岸でバーベキューと花火を楽しみました。

最終日の20日は朝づとめ後、男子は青年会あらきとうりょう入門塾、女子はこかん様に続く会に参加。閉講式を行い、午前9時40分の丸亀便で丸亀に渡り、多度津町にて本場のさぬきうどんを楽しみ、再び集うことを誓って解散しました。

こかん様に続く会

婦人会本島支部（片山かおり委員長）では8月20日朝、こかん様に続く会を実施。9名の女子学生が参加しました。吉田要子委員が女子青年活動について話しました。

あらきとうりょう入門塾

青年会本島分会（伊東賢太郎委員長）では8月20日朝、あらきとうりょう入門塾を実施。8名の男子学生が参加しました。肥後信委員が青年会活動について話しました。

宮森先生おてなおし

大教会世話人・宮森与一郎先生による「おてなおし」が8月25日午後3時より約1時間、詰所4階講堂で行われ、大教会長夫妻をはじめ55名が受講しました。

まず基本的な手振りをおさらいした後、よろづよ八首から二下り目までの手振りを確認しました。

宮森先生には本年10月22日の大教会秋季大祭へご巡教くださることになっています。

大勢のご帰参をお待ちしております。

赤峰少年会おとまり会

赤峰分教会(向所隆文会長、宮崎県都城市)では、8月13日から2泊3日、教会おとまり会(赤峰キャンプ)を実施。少年会員4名、育成会員8名の12名が参加しました。

教話、おつとめ鳴物稽古、プール、和太鼓、川でヤマメつかみ、廻廊掃除ひのきしん、水鉄砲サバイバルゲーム、夜のお楽しみ会などさまざまな企画にチャレンジ。月次祭終了後、神殿にて元気よくCreepy Nuts「Bling-Bang-Bang-Born」を御供演奏しました。

崇徳育成会

崇徳分教会(高垣光治会長、香川県丸亀市)では、8月17日と18日、大教会にて崇徳育成会行事を実施。少年会員3名、学生会員9名、育成会員5名の計17名が集いました。

ご誕生おめでとう

菅岡結衣さん(令和7年7月20日生まれ、本高分教会)

吉永優仁さん(令和7年8月2日生まれ、本陽山分教会)

伊東さらさん(令和7年8月15日生まれ、本備前分教会)

久尾マイリー愛菜さん(2025年8月17日生まれ、マウイ教会)

すき間のおはなし

モンゴルのお宝と天理大学

現在、絶賛開催中の「大阪・関西万博」。海外パビリオンは世界158の国と地域および7つの国際機関が参加している。その中の一つ、モンゴル国のパビリオンではモンゴル遊牧民の暮らしや、英雄チンギス・ハンの紹介が行われているのだが、その中で目を引いたのが「パイザ」の紹介だ。

パイザとは13世紀、モンゴル帝国のいわゆる外交官パスポートのようなもの。5種類の素材でランク分けされていて、パイザを持つことによって駅伝制の施設や交通手段を利用でき、広大なユーラシア大陸を円滑に移動できるもの。そのモンゴル・パビリオンの説明文の最後に、次の一文が記述されている。

「『天賜成吉思皇帝聖旨疾』といったチンギス・ハンの名前を含む文言が入った純金のパイザは、日本の天理大学で所蔵されており、複製はモンゴルのチンギス・ハン国立博物館で所蔵されています。」(※フリガナと圏点は筆者記入)

本物は天理、複製はモンゴルという紹介に、びっくりした。

今年は天理大学創立100周年記念として、奈良国立博物館で「世界探検の旅—美と驚異の遺産」が開催されている(開期は9月23日まで)。ここでは天理参考館が所蔵する民族資料が多数展示されているのだが、そこに「成吉思皇帝聖旨牌」が展示されているのを見つけ、思いがけず本物を見ることができた。(しかも写真撮影可)

モンゴル帝国時代(13世紀)のもので、黄胴製に鍍金がなされ、長さ20・1センチ、重さ338・5グラム。

これはモンゴルでは国宝級のものではないか。なんだかすごいぞ。いろんなことがつながって、猛暑の疲れも吹っ飛び、大興奮の夏であった。(むかいじょ)

事情はこび

立教188年8月26日、本島関係のお運びはありませんでした。

おさづけの理拝戴

（立教188年7月分）

御幸濱　五嶋良一
御幸濱　五嶋康子
崇徳　高垣麻衣子
本小倉　大畑遥
マリーナ　Genichiro Jason Iwahashi
台檀　Melissa So

【計6名】

修養科第一〇〇八期修了

（立教188年8月27日修了）

鶴峰　岡田共妙

【計1名】

をびや許し

（立教188年7月分）

本淀　久木田まゆみ
大英峰　阿部理恵
肥後八峰　原田知秋

【計3名】

証拠守り下附

（立教188年7月分）

カリフォルニア1　【計1名】

「学生生徒修養会・高校の部」受講者名簿

（立教188年8月9日～13日）

■受講生　【計6名】

▼本千嘉△中山龍聖（2年）▼雄福峰△北山絵里加（3年生）▼大松峰△中理（3年生）△小田木愛叶（2年生）△牟田琴未（2年生）△美濃部恵（1年生）

■スタッフ　【計6名】

▼本島△片山香葉子　▼本千代△吉田貴慶　▼本太△佐藤祥子▼本備前△伊東賢太郎　▼實峰△山内智子　▼栄東峰△川村幸代

【教会の掲示板】本島ドットコムよりダウンロードできます

大教会長動向

▼9月(予定)▲

8月28日～9月5日、海外巡教
10～13日、天理大学ようぼく会夏季伝道（大教会）
22日、大教会月次祭執行
23日、大教会秋季霊祭執行
24日、修養科総立まなび
25日、かなめ会委員会
26日、本部月次祭参拝
27日、かなめ会
28～30日、全教一斉にをいがけデー
30日、本部神殿奉仕当番

以上

ろくぢ会

（立教188年8月分）

▼本島△片山幹太・片山かおり・香葉子・幹太郎・好次・昇太△片山秀明△長尾真実・幸太　▼本樺△大上ほの香・はる香・太吉　▼本浜△片山清枝・正枝・誠　▼安藝本中△池田こみち　▼崇徳分教会　▼本高分教会　▼ポートランド△片山和信・陽子・昇慶・竜次

ご芳志に厚くお礼申し上げます

秋季霊祭のご案内

【本島大教会】

9月23日、大教会で執り行われる秋季霊祭には、左記の霊様が年祭に当たっておられますので、ご連絡いたします。

■五年祭
石原利邦主（本日比）

■二十年祭
平井朝男主（樺太）

■三十年祭
神谷徹男主（神峰）
山口カメノ刀自（張家口）
永島ソノ刀自（渋谷）
山口貞吉主（張家口）

■五十年祭
平井キヨ刀自（樺太）
杉井イシ刀自（本阿波）
西本ミツコ刀自（本日比）
石谷春子刀自（ウエスタン）

■四十年祭
讃井光子刀自（代々木）

【計十一霊】

※教会名は連絡先であり、実際の所属とは異なる場合もあります。

大教会からのお知らせ

8月22日教会長会議連絡事項

講習会の日程変更

【教会本部】

「教人資格講習会」「教会長資格検定講習会」の立教189年1月27日からの受講期間に限り、下記の通り変更になりますのでご注意ください。

- **教人資格講習会**(1/27～2/10)
  変更後：2月1日～15日
- **教会長資格検定講習会**(1/27～2/16)
  変更後：2月1日～21日
- なお、教会長資格検定は2月22日に実施します

全教会布教推進月間

【布教部】

本年9月は**「全教会布教推進月間」**です。全教会をにをいがけの拠点とし、一人でも多くのようぼくの実動を目指しましょう。

「にをいがけ名簿」「おさづけ取次報告」を9月21日と10月21日、全教会もれなくご提出願います。

「実動報告書」（所定用紙、本島ドットコムからもダウンロード可）は10月21日まで大教会布教部へご提出ください。

布教推進研修会

【布教部】

- **日時**：10月25日(土) 18：30～20：00
- **会場**：本島詰所4階講堂
- **参加御供**：500円(但し修養科生、講習生、学生は無料)
- **講師**：西村和久先生
  （本部直属・一筋分教会長）

※昨年まで「ようぼく研修会」を開催してきましたが、年祭活動の3年目は「布教推進研修会」として実施します。

https://www.honjima.com/

斯道会別席団参 第1次申込

【団参担当】

- **斯道会別席団参**：11月30日(日)
- **第一次帰参申込み締切**：9月22日

QRコードをスマートフォンで読み込むと、報告フォームになります。

スマイルリレープロジェクト

【団参担当】

- 各教会の集合写真(スマイル)をお送り下さい。スライドショーを作成し、斯道会別席団参前夜の「嬉し楽しおしゃべり横丁」で上映します
- **応募方法**：スマートフォンかデジタルカメラで集合写真を撮って、LINEか下記メールアドレスへ送って下さい
- **LINE送信先**：婦人会、青年会、少年会、学生担当委員会の各委員
- **メールアドレス**：
  shidoukai.honjima@gmail.com
- **期限**：10月22日まで
- **質問受付**：
  池田さわみ 080-1915-3870
  片山直明 090-7118-0521

みちのだいおはなし会

【婦人会本部】

- **日時**：9月26日(金)午後1時～2時
- **会場**：南右第二棟 陽気ホール
- **講師**：伊橋幸江先生(天理教校本科講師)
  「心の花を咲かせよう―教えを胸に、いそいそと」

※託児はありません。

おやさと講演会

【教会本部】

- **日時**：9月25日(木)午後5時～6時
- **講師**：本部員高井久太郎先生
- **会場**：第二食堂

秋季雅楽講習会

【青年会本島分会】

- 日時：9月13日(土)午前10時～
  9月14日(日)午後1時解散
- 場所：本島詰所
- 内容：初心者は平調、経験者は壱越調

青年会マンスリー隊

【青年会本島分会】

おもに祭典準備ひのきしんを行います

- **実施日**：立教188年(2025年)
  9月20日(土)、10月12～13日

鼓笛隊練習着修繕(ひのきしん)

【婦人会本島支部】

- **日時**：9月22日(月)夕づとめ後

※コーラス練習もおこないます。

9月ひのきしん派遣依頼

【総務部】

〈大教会・食堂ひのきしん〉

- **期間**：9月21日～23日
- **派遣教会**：本九

〈詰所・食堂ひのきしん〉

- **期間**：9月25日～26日
- **派遣教会**：本京①、馬木尾①

大教会9月月次祭ライブ中継

【本島通信編集室】

- **対象**：9月22日大教会9月月次祭に参拝できないため、ライブ中継視聴を希望する方
- **申込方法**：
  メールで、**live@honjima.com**に「ライブ希望」と「教会名・氏名」を記入してお申し込みください。当日朝ライブ視聴できるアドレスをメールでお知らせします。
- **申込締切**：9月21日午後5時まで
- **ご注意**：ライブ中継は毎月のお申し込みとなります。